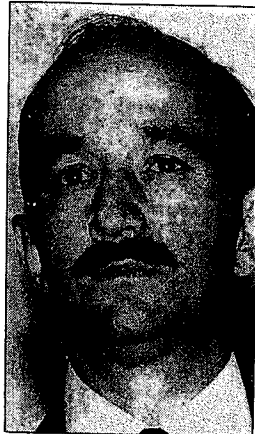


メキシコ次期大統領候補(短信)

著者	石井 章
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	ラテンアメリカレポート
巻	4
号	4
ページ	27-27
発行年	1987-12-20
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00006668

メキシコ

石井 章

次期大統領
候補

◀カルロス・サリナス・デ・ゴルタリ氏

大方の観測では、前記6人のうち実質上はデルマソ、バルトレット、サリナス3氏の争いとみられていた。デルマソ氏には PRI の主要支持母体の一つである労働団体の支持と、その大ボスであるフ

イデル・ベラスケス氏の強い推輓があり、バルトレット氏は、このところテクノクラートの支配が続く党内で、正統派の「政治家」(politico) 代表として売込んだが、結局デラマドリ現大統領直系のサリナス氏に白羽の矢がたった。

サリナス・デ・ゴルタリ氏は1948年メキシコ市の生まれで39歳。メキシコ国立自治大学(UNAM)経済学部を卒業後、米国ハーヴァード大学院で経済学と行政学を学び、修士、博士号を取得。その後母校 UNAM で経済学を講じた。デラマドリ大統領との結びつきは、ロペス・ポルティエーヨ前政権下でデラマドリ氏が蔵相、企画・予算相を務めたときにその部下であつたことから知られる。現政権発足とともに企画・予算相に就任、緊縮財政を軸とした経済軍営の舵とりにあたつた。

米国の経済界、金融界の受けがいい反面、国内の労働団体の反撥や、前記「民主的潮流」をはじめとする左派からの揺さぶりも予想され、次期政権の前途は必ずしも楽観を許さないが、ともあれ1988年12月の就任時で満40歳、乗馬やジョギングを好む若い大統領にメキシコ国民は次の6年間に委ねることになる。

(いしい・あきら/中南米総合研究プロジェクト・チーム)

メキシコの与党 PRI (制度的革命党) は、去る10月4日の代議員大会で、次期大統領候補としてカルロス・サリナス・デ・ゴルタリ企画・予算相を指名した。来年7月の第一日曜に予定されている大統領選挙を経て次期大統領が正式に決まるが、PRI の候補者が選出されることは確実だから、実質的にはこの段階で次期大統領にサリナス氏が内定したといつてよい。

PRI の大統領候補者の選考は、現職大統領をはじめとする党内の長老、有力者の間で秘密裡にすすめられ、蓋を開けてみるまで実際にだれが指名されるのか、一般の国民はもとより黨員さえも知らされないのが実状である。これに対しては党内でも不満が多く、候補者選考過程の明朗化、さらに党運営の民主化を求める声があがっていた。

こうした下からの動きに対する対応策の一つとして、今年は候補者指名に先立ち8月の段階で指名される可能性のある6人の名前が公表された。6人とは、サリナス氏の他、アルフレッド・デルマソ・エネルギー・鉱業・公企業相、マヌエル・バルトレット内相、アギーレ・ベラスケス連邦区長官、ガルシア・ラミレス法相、ゴンサレス・アベラル公教育相である。

他方、党内の非主流(左)派は「民主的潮流」(Corriente Democrática) というグループをつくり、党運営の民主化を求める一方、クアウーテモク・カルデナス前ミチオアカン州知事(ラサロ・カルデナス元大統領の子息)を候補者に推す動きをみせたが、大勢に影響を与えるには至らなかった。